

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 若狭町社会福祉協議会	代表者	会長 山崎 和男	法人・ 事業所 の特徴	『笑顔を導く応援団』を理念とし、ご利用者様・ご家族様・地域の皆様の笑顔を導き出せるようチーム一丸となって運営している。 ひとり暮らし・高齢者世帯が多い地域性のなか、通い・訪問・泊まりサービスを組み合わせ、在宅維持に力を入れている。 地域行事や地域交流に積極的に参加し、利用者様の地域との繋がりが途切れないようサポートしている。
事業所名	小規模多機能ホーム ほたる熊川宿	管理者	藤井 浩一		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	5人	人	人	(1)人	人	3人	2人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	在宅継続に必要なスキルの習得に努める。 評価が分かりやすくできるようシートを工夫するなどの検討をする。	2ヵ月に1回内部研修を実施し関わりの強化に努めた。 他事業所の小規模多機能と連携した研修の実施。	厳しく評価をしているのではないかと。もう少し点数をつけても良いのでは。	在宅生活を継続できるよう、一人ひとりのケアプランの見直しと、今、できている事を今後も継続していけるよう職員全員でサポートする。
B. 事業所のしつらえ・環境	事業所に入りやすい工夫を引き続き検討しながら、掲示板やその他の方法でも地域の方に事業所を周知活動できるようにする。	サロンや地域行事の際に施設を開放した。ほたるの広報誌も作成していこうと検討している。	広報誌の作成は良いと思う。全戸配布ではなく、回覧を活用したらどうか。目に触れることによって、ほたるのイメージが良い方向に変わるのではないかと。	事業所に入りやすくなるよう、広報誌を活用し周知活動に努める。整理整頓を常に心掛け、居心地の良い施設作りに務める。
C. 事業所と地域のかかわり	地域サロンや地域の組織の会合などに出向き関係を深める。	サロン活動には職員が出向き、健康体操やお話等をさせて頂いている。新春放談会等にも参加させて頂いた。各ボランティアさんにも行事等参加して頂き、年末の行事の際には、熊川音頭も披露して下さった。	ボランティアとして行事に参加させてもらうようになってからは、入りやすくなっている。敷居は低くはなっているが、まだまだ用事がないと入りにくいイメージがある。	地域の方が分かりやすく、ほたる熊川宿で足を止めて頂ける様な工夫を引き続き、検討・実施していく。介護教室を実施する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	敬老会などの地域行事に利用者様が参加できるようにサポート体制を強化し、地域住民の方の支援も得られるように事業所一体で関わる。	利用者さんと職員も一緒に敬老会に参加させて頂いた。	老人会と利用者様との関わりが途切れないような活動が出来ている。(敬老会・老人大会の参加やサロン活動)	引き続き、敬老会や老人大会・ホテル観賞会等の地域行事へ参加する。

E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進委員さんから情報をいただき各団体への関わりができるような取組みを会議内で検討する。	以前から挙がっていた地域の気がかりな方について、体験利用等を継続的に行い、定期利用に繋がった。職員では支援しきれない部分を助けて頂ける様各団体の皆さんと協議していきたい。	気がかりな方についての報告。デマンドタクシーや社協の車両貸出しなどのサービスを使いながら、支援が必要な部分を実施していけると良い。	会議でご意見を出して頂きやすい雰囲気づくりに努める。頂いたご意見は職員で共有し改善へつなげる。
F. 事業所の防災・災害対策	事業所のしつらえと防犯対策の兼ね合いについて検討する。地域の防災訓練に住民の方と連携して参加できるようにする。事業所の防災訓練に地域の方も参加していただけるよう計画する。	新道の防災訓練には、職員が参加させて頂いた。熊川の防災訓練には、訪問に合わせて利用者さんと一緒に参加させて頂いた。	災害時等には、施設には貸出しの出来る車椅子等はあるのか。緊急時には、ほたるでは 24 時間体制なのでいつでも連絡をして頂けると良い。 AED の設置はほたるではしていない為、小学校になる。	地域の防災訓練に住民の方と連携して参加していく。事業所の防災訓練にも地域の方も参加して頂ける様引き続き計画・実施していく。災害時には、支援できる体制である事を PR していく。